

社会人経験後に看護学校入学に至るまでの TEM 図の共同作成

Joint drawing of the TEM figures about ways that students had taken
to enter a nursing school after working experience.

○伊東美智子¹⁾、堀 智子²⁾、宮元博章³⁾

○Michiko Itou, Tomoko Hori, Hiroaki Miyamoto

兵庫教育大学大学院 ¹⁾ 修士課程、²⁾ 元修士課程、³⁾ 学校教育研究科

Hyogo University of Teacher Education ^{1,2)} Master course student ³⁾ Graduate School of Education

Key words: 社会人、看護学校、TEM(複線径路・等至性モデル)

目的

近年、看護師学校養成所(以下、看護学校)の入学者を見ると、高卒現役生が減少する一方、社会人学生(いったん社会人経験を経た後に、看護基礎教育を学ぶために、養成機関に入学してくる者:以下、社会人学生)は増加傾向にある。このような、看護学生の背景の変化に、教育・臨床の現場は十分に対応しきれておらず、聞こえてくるのは、「手垢にまみれている」「扱いにくい」といったネガティブな言葉である。しかし、学生個々の人生径路を掘り下げた先行研究は見当たらない。そこで本研究では、先ず協力者に看護学校入学に至った経緯について語ってもらい、その後に聴き手と語り手の共同で、彼らが辿って来た物語の可視化に取り組んだ。その過程を通して、教える側—学生側、双方の関係性構築にも示唆を得たので報告する。

方法

1) A看護専門学校3年生の内、研究協力が得られた社会人学生6人に、半構造化インタビューを施行。
2) その中から、了承を得た4人に第2弾インタビューを施行。その際、協力者自身に看護学校入学までを表したライフラインの記述を依頼。その後、1)での聴き取りを元に研究者が作成した「看護学校入学までの TEM 図」を共同注視しつつ、半構造化インタビューを施行。描かれたライフラインや追加情報を加え、図を修正した。

結果

図1: 協力者きなこ氏のライフライン

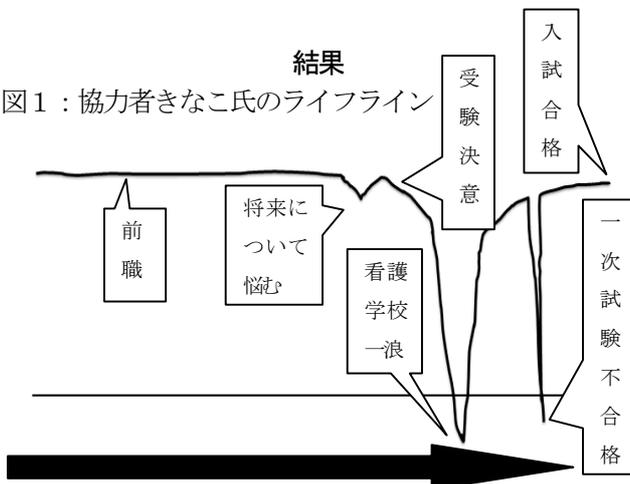


表1: TEM 分析のための概念(きなこ氏)

概念	本研究では
等至点	看護学校に入学する
両極化した等至点	看護師以外の生き方を歩む(結婚する)
分岐点	看護学校受験を決める
必須通過点	看護師にならなければと思う
社会的方向づけ	<ul style="list-style-type: none"> ・今しかできないことを優先したい性格 ・25.6歳となり、将来(仕事の昇進や結婚)について立ち止まって考える時期を迎える ・前職に飽きる ・祖父の死を通し、両親には同じ思いをさせたくないと思う
社会的ガイド	<ul style="list-style-type: none"> ・やりたいことはドンドンやる性格 ・元々、看護師に憧れていた ・友人は看護師が多く、待遇面などの情報が入りやすい人的環境にいた ・祖父の臨終に伴う看護師の対応に怒りを覚える

協力者たちが前職を経た後に看護職を選んだ経緯として、1) 家族の闘病や死を通して看護職を意識、2) 失業や仕事の行き詰まり、3) 経済的安定や公的資格取得の魅力、4) 進学に際する奨学金受給や社会保障制度の紹介等の経済的支援、が関係していることが分かった。

考察

協力者たちの経てきた道程は想像以上で、その豊かな語りに、かつて教員であった研究者の方が教えられるばかりであった。一方の彼らも、社会人学生に注目して研究を進めようとする者に向かい、惜しげもなく生きざまを披露し、中にはこの研究協力で得たものを、自身の未来のチカラにさえしようとする逞しさも垣間見せてくれた。この、共に径路図を作り上げて眺める作業に、立場を超えた共育の可能性を見出せるのではないかと考える。

参考文献

1) 安田裕子・サトウタツヤ(編)(2013)「TEM でわかる 人生の径路—質的研究の新展開」誠信書房